

## 今週の話題：

<チャドにおけるポリオ根絶に向けての進展状況、1996年-1999年>

1988年にWHOは全世界からポリオを根絶することを宣言（WHA41.28宣言）1997年に中央アフリカ諸国は「ワクチン接種日」（NIDs）を制定し、急性弛緩性麻痺（AFP）の調査体制を完成させた。

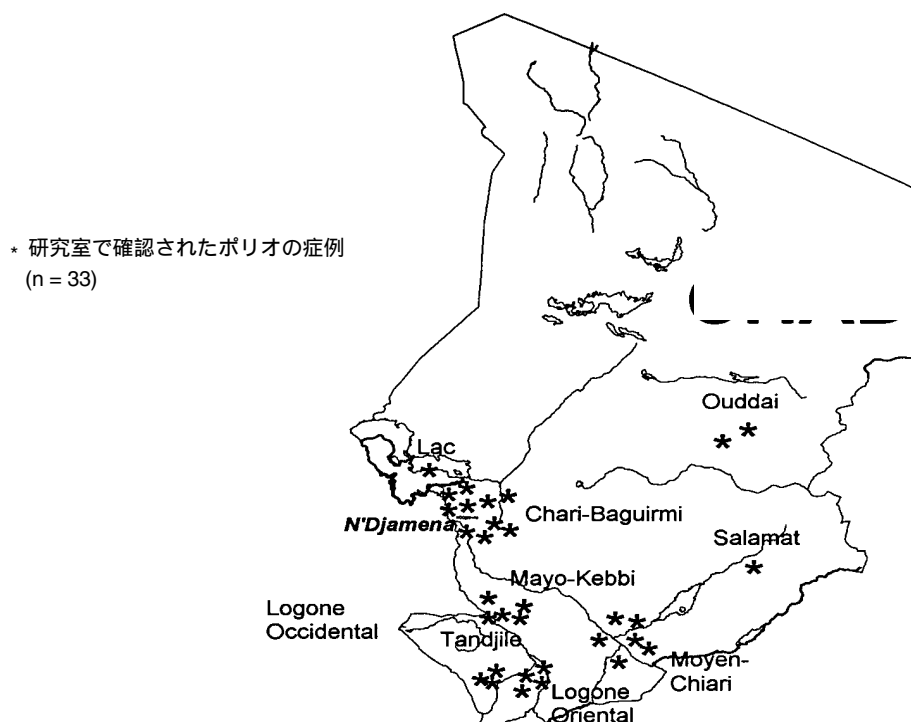
定期的なワクチン接種の状況：チャドは内戦により社会基盤が破壊され、医療活動は深刻な影響を受けた。3回投与経口ポリオワクチン（OPV3）も含めて、ここ10年間の幼児への接種率は40%未満と低い。チャド南部にポリオ症例が報告されている（地図1参照）。

定期接種を補充するOPV接種の取組み：1997年-1998年、5歳以下の90%以上に当たる80万名に対し、OPV接種を実施（各戸を2回巡回）。遠隔地では訓練を受けたヘルスワーカーが不足しているため医学生が代わって指揮をとった。

AFPの監視体制：1995年から情報収集が始まったが、資金、人的・行政的支援の不足と、検体輸送に数ヶ月かかり、不十分な調査だった。

1999年5月、AFPや麻疹、マラリア、黄熱、脳膜炎、コレラを総合的に調査する部局を保健省が設置。AFP調査に関わる職員の訓練を開始。同時に、3人の疫学者から構成されているWHOとCDCの「STOPポリオ」第1次チームが支援。AFP調査の質は次の2つの指標で判断する。指標1；AFPのうち要因がポリオでない率（非ポリオAFP率）目標値；15歳以下の10万名の児童中、非ポリオAFP率が1%以上、指標2；麻痺の開始2週間以内に2検体が採取されるAFP症例の率（検体採取率）目標値；80%以上。表1に示すように、いずれの指標も1999年に劇的に改善。非ポリオAFP率は1.49%（1998年までは0%）、検体採取率は46%（従来は検体の輸送に数ヶ月がかかった）。しかし、AFP監視体制の質の更なる向上が必要。

地図1 州別のポリオ報告症例数、チャド、1999年



1999年、チャドにおける州別のポリオ症例。\* 研究所で確認されたポリオの症例。主に人口が集中している南チャドにおいて、ポリオ症例が集中して報告されている。

表1：急性弛緩性麻痺（AFP）及び確認されたポリオの報告症例数、チャド、1995年-1999年  
（WER 参照）

### 流行ニュースの続報

#### インフルエンザ

2000年1月に、ベルギー、中国、クロアチア、チェッコ共和国、フィンランド、フランス、ドイツ、中国の香港特別行政区、イラン・イスラム共和国、イスラエル、日本、ラトヴィア及びノールウェーにおいて流行が報告された。

#### < 国際保健規則（IHR）の改定 >

経過報告、2000年1月：以前の週報でも述べたが、IHRは改訂される。その基本は国際交流の制限を最小にとどめ疾病の蔓延を最大限に抑えようとする。21世紀には交流は頻繁になるので、WHO、WTO（World Trade Organization）とCAC（Codex Alimentarius Commission）の3機関は互いに協調して対処することが重要。

#### 加盟国の幅広い意見を取り入れる

通信手段を用いた公開討論会：全てが一堂に集まるのは難しいのでバーチャルの公開討論で加盟国151カ国の意見を反映させる。

シアトルでのWTO会議：WHOとWTOは1999年末に食料の安全性会議を共催し、NGOも参加した。

疾病と緊急の国際公衆衛生事業の通知：改定後は疾病の通知は続け、全ての国際公衆衛生事業を紹介する。また、突発事故に関係国とWHOと共同して対処できるような非公開の会議の開催も視野に入れる。IHRの続報は、2000年7月。

事務局からの通知：マカオは中国の特別行政区とする。

### 流行ニュース

#### シエラ・レオーネ（アフリカ西部）における赤痢

1999年11月、赤痢菌A群1型（Sd1）とB群を確認。2000年1月までに3094名の患者、うち132名の死亡。早急に調査を予定。

#### ブラジルにおける黄熱（最新版）

2000年に入ってから感染が疑われる症例が61件。13件中5件が黄熱と確認。

（折田文子、西山馨、宇賀昭二）